

企画展「テート美術館-YBA&BEYOND」

国立新美術館、90年代英国美術の革新的創作に迫る

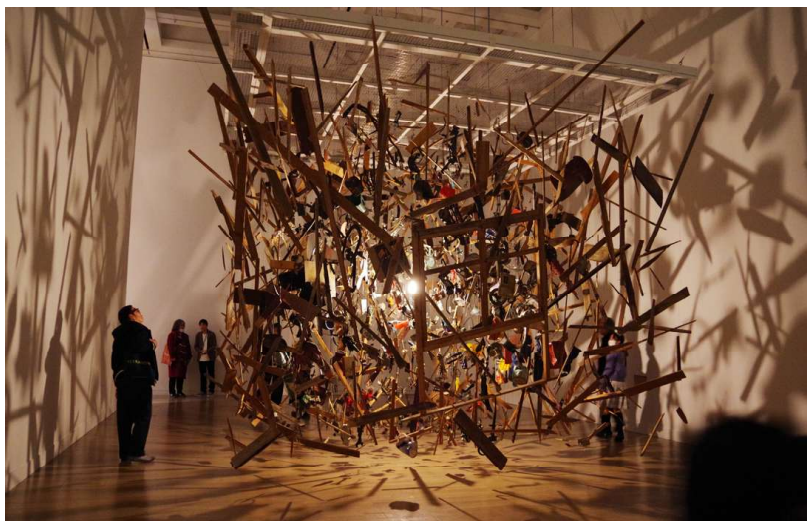
国立新美術館では2月11日より、企画展「テート美術館-YBA&BEYOND」世界を変えた90s 英国アート」を開催している。国立新美術館でのテート美術館のコレクションによる展覧会は2度目となる。

同展は、1980年代後半から2000年代初頭にかけて制作された英国美術に焦点を当てるもの。当時、英国では、既存の美術の

枠組みを問い、実験的な表現を試みるアーティストたちが数多く登場した。「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト（YBA）」と呼ばれた作家たちや同時代を生きたアーティストたちは、大衆文化や私生活、社会構造の変化等をテーマに、様々な手法を用いて独創的な作品を発表してきた。

同展では、ダミアン・ハースト、ルベィナ・ヒミド、トレイシー・エミン等、58名の作家によるおよそ100点の作品を通じて、90年代英国美術の革新的な創作の軌跡を検証するとしている。

2月10日には、逢坂恵理子国立新美術館長、グレゴール・ミューアテート美術館コレクション部門ディレクター、エミール・レベンドール駐日英国臨時代理大使らが出席し、開会式が行われた。逢坂館長は自身も英国のアートショーに刺激を受けたと語り、「90年代は日本でも新しい表現に挑戦する若いアーティストたちが台頭した時代。昨年当館で開催した『時代のプリズム』日本で生まれた美術表現1989-2010」をご覧いただいた方には、この二つの展覧会を比較してみたいだけではないと述べて。会期は5月11日まで。



「テート美術館-YBA&BEYOND 世界を変えた90s 英国アート」国立新美術館 2026年 展示風景



挨拶する逢坂館長

した『時代のプリズム』日本で生まれた美術表現1989-2010」をご覧いただいた方には、この二つの展覧会を比較してみたいだけではないと述べて。会期は5月11日まで。